

会 議 録

会議の名称	第5回 鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会	
開催日	平成29年7月15日(土)	
開催時間	午前10時00分 開会・午前12時02分閉会	
開催場所	鴻巣市役所 本庁舎 4階 大会議室	
議長(委員長・会長) 氏名	会 長 矢 部 保 雄	
出席者(委員) 氏名 (出席者数)	矢部保雄(会長) 千葉一安(副会長) 秋葉寿美子 新井聡恵 奥木美恵子 森田博子 島村伸之 伊藤幸久 大原敏昭 武井浩之 佐藤芳隆 松谷裕美 中田周誠 橋本 浩 <div style="text-align: right;">(14名)</div>	
欠席者(委員) 氏名 (欠席者数)	菅間幸子 <div style="text-align: right;">(1名)</div>	
事務局職員 職氏名	教育総務部長 田中 潔 教育総務部副部長兼生涯学習課長 大沢 昌弘 学校教育部副部長兼学務課長 野本 昌宏 教育総務課長 岡田 和弘 学務課副参事 上岡 勝 教育総務課副主査 遠藤 美穂 教育総務課技師 新井 亮裕 <div style="text-align: right;">(7名)</div>	
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(傍聴者13名)	
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 要望書について (2) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」意見集約 (3) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」答申(案) (4) 今後のスケジュールについて 4 その他 5 閉会	

(1) 要望書について

(矢部議長より要望書の経緯について、報告あり)

(審議会委員の主な意見)

- ・大規模校のメリットの方が大きい。本審議会は、子どもたちの成長安全が第一であり、大規模校で進めていくことが妥当。
- ・多数決によって決めるものでない。子どもたちのために議論し、視察など注意深く進めていくべきであり、結論を急ぐものでない。
- ・納得できる要望書と思う。将来的なことを見据えて、10年先を考えて皆さんと審議したい。
- ・メリット・デメリットは、果たして本当なのか。笠原小から鴻巣北中に行った子どもたちのことを調査してから始めるべきと考える。
- ・審議会としてもこの2年間、出来る限りやってきたと思う。数年後には、児童数も減少傾向が見えているので、これらの状況等を今後も情報提供してもらいたい。
- ・果たしてメリット・デメリットとは何なのか。各学校でそれぞれ皆さんが努力している。全国的に子どもの数が減っていく中で、最終的には、子どもの幸せのために、それに向かってより良い環境を大人として考えなければ話が前へ進まない。少人数学級の話が出たが、アメリカと日本は住宅環境が違う。一概に比べることは出来ない。鴻巣の子どもたちをどうしたら良いのか考えていく、具体的には、複式学級が見えたときに考える、そのような現状が見えたときに答申として出していったらどうか。
- ・学校は地域の交流の場である。勉強より社会性を学ぶ場である。親も子どもも多い方が色々なことができる。20人しかいないところより、200人いた方が、出会いや子どもの気づきが多い。人間関係を学ばせてあげる場として、意見交換していききたい。大きなことを変えるときには、色々聴いていくべきで、最終答申を出せるとは、限らない。
- ・保護者の子どもに対する気持ちの強さは、大規模校だから多いわけでない。600人いるうち、集まるのが100人という現状もある。人数が少なくなったから統合するというのは無計画と感じた。耐震やエアコンの整備が終わり、市としては、子育てをアピールしているのに、複式イコール統合というには、理解できない。少なくなったから統合するというのは、それだけを見るとアンバランスである。不安だという声もあり、決して喜ばれない。10年先、その時点で決めていけば良いのではないかと思う。

(議長) 各委員より発言のあった意見等を要約し、正副会長一任にて回答書作成する。

(2) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」意見集約

(矢部議長より意見集約について、今までの審議会等で各委員より出された意見を集約したものを一覧表に作成した旨の報告あり。字句の訂正や追加意見等があれば、意見を述べてもらいたい)

- ・意見を集約した中に、「小さい学校から大きい学校へ」とあるが、「小さい小学校から大きい中学校へ」という表現に訂正願いたい。
- ・たたき台が考えられていないまま議論が始まった。いろいろな意見はあるが、審議会として指針は出さないといけない。今回、「寝耳に水」的に始まった。ゆっくり時間をかけて検討するべきである。
- ・東小・南小・田間宮小の通学区域の見直しについては、子どもが安全に通学できることが第一で、上尾道路の進捗状況などの情報収集を行い、高崎線の東側及び西側のそれぞれの範囲内での通学が可能となるよう検討する必要がある。
- ・城山学園を視察したが、規模的には一体型の小中一貫教育にちょうどいいと感じた。通学距離も短く、この城山学園の規模だからこそできたのではないか。ただし、開校にあたっては、7年位時間がかかっている。検討事項が多いため、川里地域は今まで通りで良いと思う。共和小は児童数が減っているが、修学旅行などは一緒に行っている。
- ・城山学園は、開校するまで教職員の努力、地域や保護者の支援があって、基礎を固めたようだ。子どもたちの挨拶の声が素晴らしく、不登校もなく、中1ギャップもない。川里地域の子どもの数は減っていくが、今のまま連携型の小中一貫教育を続けていきながら城山学園でやっていた「いきいき学舎検討委員会」などの会議の場で、まずは、現状を知ってもらうことが大事かと思う。
- ・少人数のクラスはきめ細やかな教育ができるが、音楽や体育、交流学习、林間学校などにおいては、子どもたちの人数は多い方がよい。小中連携だけでなく、小小連携も行っているが、同じ学年での遊びができない。城山学園は条件が揃っており、準備も整っていた。9年間通して、子どもたちを見ることで理解は進むが、小中では教育課程が違い、ズレがあるため、合わせる 것이難しい。PTA活動も忙しいようで、一体型にするのはまだ早い。川里地域では、今の取組みを継続していく方がよいと思う。
- ・川里地域は今の状態のままで様子を伺うほうが良い。いずれ、一体型にしていくべきかと思う。

(議長) 各委員より発言のあった意見等を要約し、正副会長一任にて答申(案)作成にあたり、参考にさせていただく旨の報告あり。

(3) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」答申（案）

（矢部議長より答申（案）の作成にあたり、各委員からの意見を伺いたい旨の報告あり）

- ・ 小学校の適正配置については、まず学区があって移動距離の問題もあって難しい。こうしなさいと言うわけではないが、大人数で授業ができるような環境を作ってあげるために統廃合をしていくべきである。しかし、どんなに子どもの数が少なくなっても、1校なくすのは難しい。
- ・ 今のままでも20人規模での学級運営は可能である。小中一貫校的なこともやっている。十分に今の規模で対応できると思う。
- ・ 未就学児の保護者がいちばん不安がっている。地域の人たちにも浸透していない。児童数などの情報提供をしてほしい。
- ・ 知らない人が多いと思う。地元や保護者が反対なら統廃合をしないというのは、逆に言えば、地元や保護者が賛成なら統廃合をすることである。学校をなくすのではなく、子どもたちをどうするかという考えのスタートになっていなかった。中学校の再編の方がし易いのでは。すぐに決めるのではなく、ほかにも色々な選択肢がある中で決めていくべきで、この問題は長期的に考えていく必要がある。
- ・ 情報開示といっても何を開示するのか。一方的にすると、受け取り側が不安になる。数値に表れないものもある。お互いがほしいものを出していただきたい。誰にとってのメリット・デメリットなのか、立場によって変わる。このような場の継続が必要である。丁寧に進めていってほしい。
- ・ なによりも子どもたちが大事である。地域の団体と協力して、その学校の特色を盛り込んだ学校を作っていくと良い。
- ・ 情報の中身によっては、不安をあおるだけだが、何もしないわけにはいかない。継続的に話し合っていくことが必要と思う。

（議長）各委員より発言のあった意見等を要約し、正副会長一任にて答申（案）作成にあたり、参考にさせていただく旨の報告あり。

	<p>(4) 今後のスケジュールについて</p> <p>(事務局説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回審議会日程について、8月6日(日)午前10:00より 鴻巣市役所 本庁舎 4階大会議室にて開催 答申書(案)を審議し、答申書を教育委員会へ提出
<p>配布資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5回 鴻巣市立小・中学校適正配置審議会 次第 2. 資料 要望書 3. 資料 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」意見集約